

【厚木市 令和7年3月 策定】  
1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

厚木市教育振興基本計画が掲げる基本理念「未来を担う人づくり」につながるよう、Society5.0時代の到来を見据え、ICTの特性を理解して活用できる力を身に付け、変化する社会を主体的に生き抜く子どもを育てることを目標に、児童・生徒及び教職員の姿として、それぞれ、「ICT活用能力を身に付け、自ら学びを調整し、他者と協働しながら、夢や可能性に挑み続ける児童・生徒」、「ICTを活用し、新時代を担う児童・生徒一人一人に豊かな学びを提供できる教職員」を目指します。

2 GIGA第1期の総括

文部科学省によるGIGAスクール構想に基づき、本市では令和2年度末までに全ての児童・生徒への1人1台端末の配布及び全校(36校)の校内ネットワークの整備を完了させました。

実質、GIGAスクール初年度となった令和3年度以降、ICTを活用した学習活動を推進するため、学校間・教職員間での情報共有や意見交換が活発に行われるよう、「情報教育推進連絡会」や「調査研究部会」を設置・運営するとともに、ICTに関する研修を適宜開催し、教職員個人のICT活用能力の向上に努めています。

また、授業づくりや教材作成におけるICT活用の支援を目的に、「GIGAステップアップ支援員」を学校に派遣しました。

これらの取組の成果として、児童・生徒を対象に令和5年度に実施した調査では、約95%が「Chromebookを使った授業は楽しい」・約85%が「Chromebookを使った授業は理解しやすい」と回答しています。また、教職員を対象とした同調査では、週に3回以上Chromebookを使う割合が、小学校では約55%、中学校では約31%と回答を得ましたが、いずれも増加傾向にあり、1人1台端末の活用が好意的に捉えられ、日常的な「学びの道具」として定着しつつあります。

一方、主な課題としては、市内全体における1人1台端末の活用率は年々上昇していますが、学校間・教職員間におけるICT活用能力の格差が依然として存在することです。

今後は、課題の解消に向けて、より一層の効果的な研修の実施や「GIGAステップアップ支援員」を始めとした支援体制の強化等に取り組めます。

3 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的な活用に向けて

1人1台端末の積極的な活用を実践する先進校の取り組み例をモデル授業として普及させるほか、優れた実践事例をアーカイブ化し、授業案を検討する際にいつでも参照可能な環境を整備するなどの方策により、1人1台端末を活用した授業づくりを推進します。

また、デジタル学習教材の導入・利用推進により、校外においても1人1台端末を利用する機会を創出し、活用率の向上を目指します。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実に向けて

デジタル学習教材等の活用により、児童・生徒の学習の進捗状況や理解度を個別に把握し、一人一人が持てる能力を最大限に引き出すよう個別最適化した学びの機会を提供します。

また、端末を活用した意見共有やディスカッション等を授業に取り入れることで、協働的な学びを深めます。

(3) 学びの保障に向けて

児童・生徒の学びを止めない観点から、端末が破損した場合に備えて、速やかな予備機の運用を可能とする体制を構築し、1人1台端末環境を維持します。

また、様々な事情により、登校又は授業に参加することが困難な児童・生徒が、自宅等から学習活動に参加できるよう、端末を活用した学習支援及び体験活動等を推進し、支援が必要な児童・生徒が学びたいときに学べる環境を整備します。